

館林市立学校適正規模・適正配置 北地区検討委員会

第2回 議題資料

目次

北地区の現状と課題解決の方向性検討

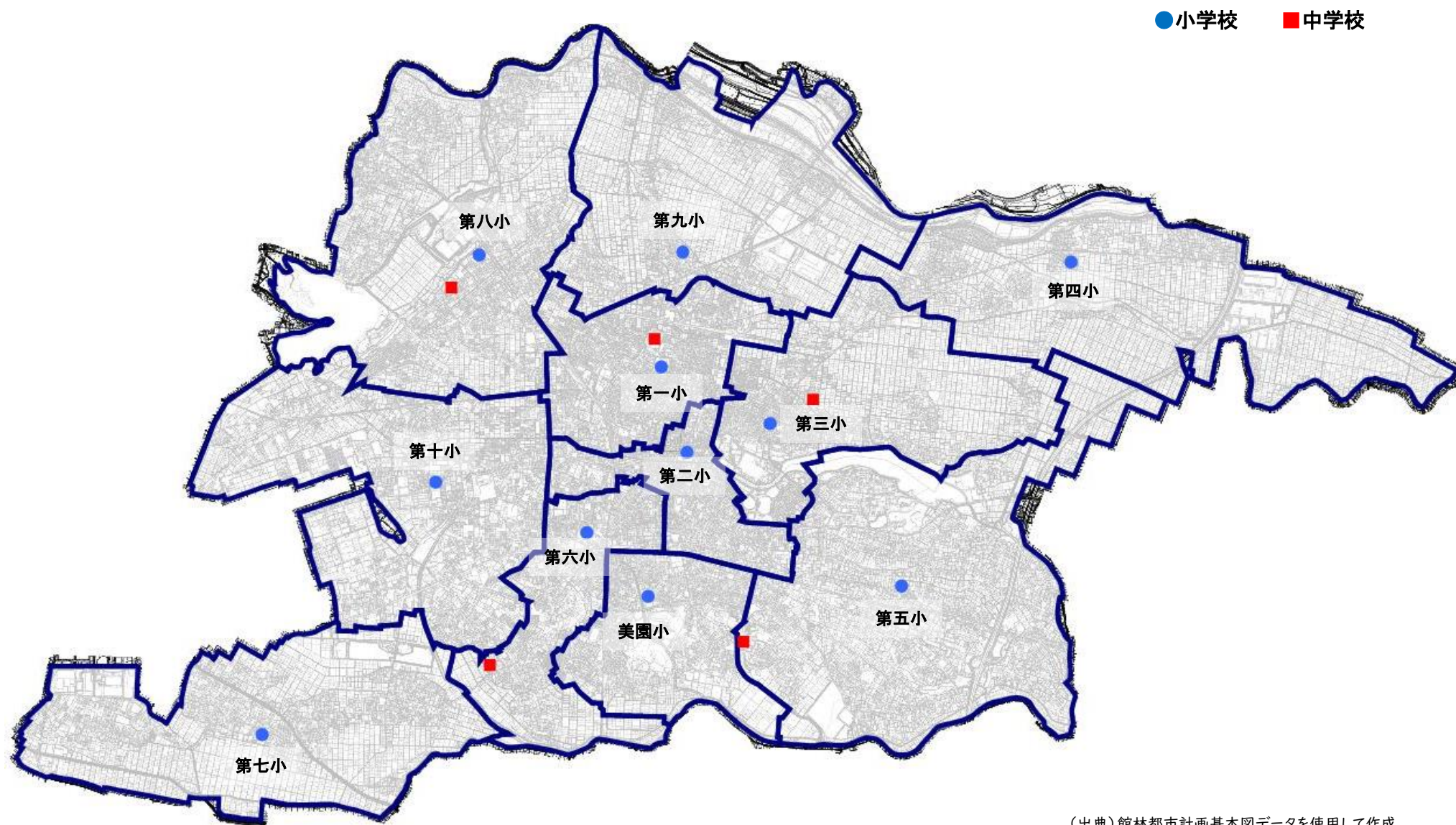
1. 小学校の配置と通学区域	3
2. 中学校の配置と通学区域	4
3. 適正規模・適正配置	5
4. 学校再編の方法	6
5. 通学区域の現状	7
6. 北地区の概要	8
7. 児童生徒数及び学級数の推移	9
8. 北地区の小学校及び中学校	12

■ 付属資料

- 付属資料1: 小学校の学区(通学区域)概略図
- 付属資料2: 中学校の学区(通学区域)概略図
- 付属資料3: 分散進学状況
- 付属資料4: 学校規模と将来推計
- 付属資料5: 館林市立小中学校教室数一覧
- 付属資料6: 学校施設の状況

1 小学校の配置と通学区域

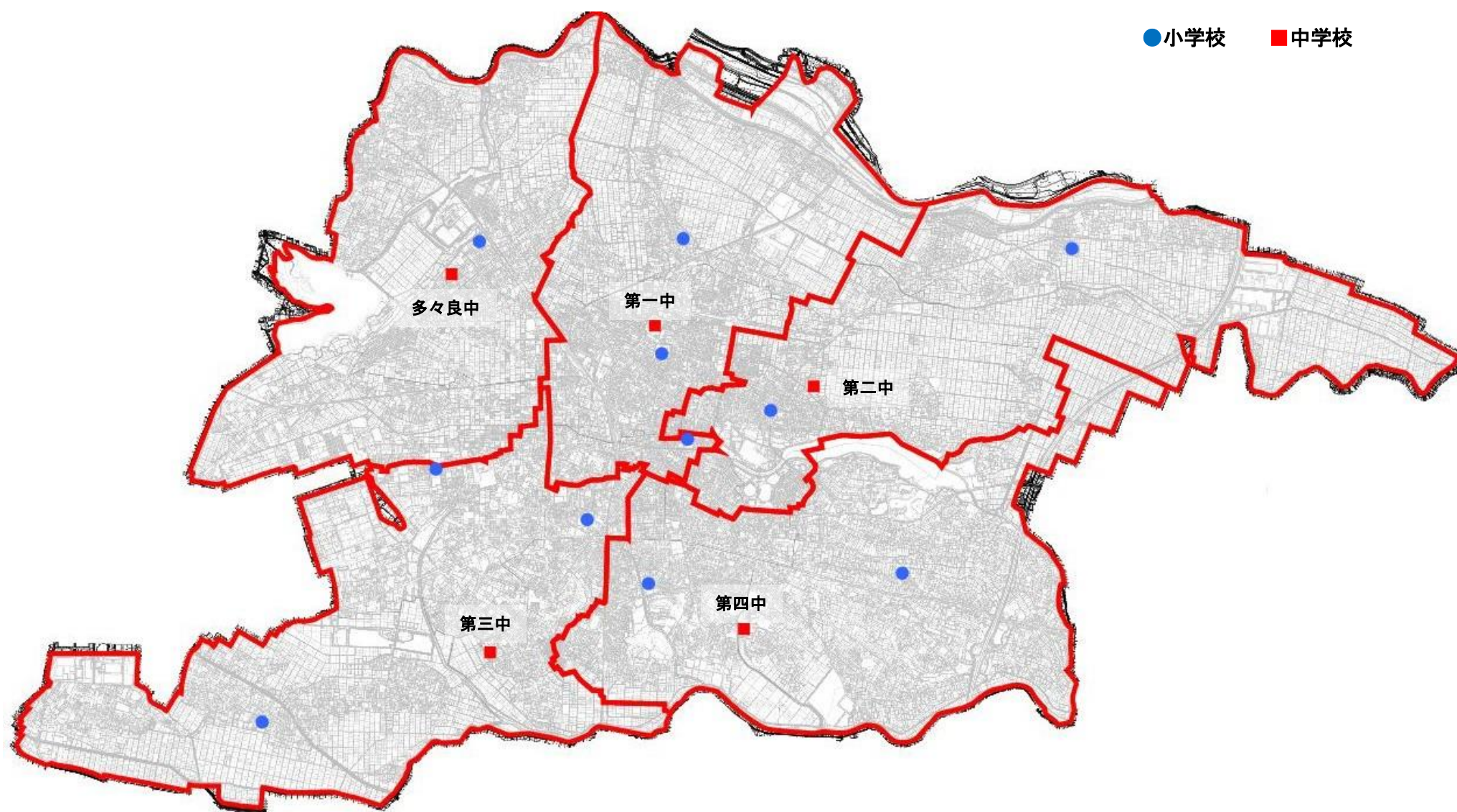
➤ 付属資料1: 小学校の学区(通学区域)概略図



(出典) 館林都市計画基本図データを使用して作成

2 中学校の配置と通学区域

➤付属資料2:中学校の学区(通学区域)概略図



(出典) 館林都市計画基本図データを使用して作成

3 適正規模・適正配置

➤基本方針(P.7~9)

■本市における小中学校の適正規模の基準

学校	学級数・児童生徒	適正規模の基準
小学校	1校あたりの学級数	全学年2学級以上とする12学級以上
	学年単学級の場合の児童数 (※1)	1学級16人以上30人以下(1・2年生) 1学級18人以上35人以下(3年～6年生)
中学校	1校あたりの学級数	全学年3学級以上とする9学級以上

(※1) 学校再編が行われるまでの暫定基準

■本市における小中学校の適正配置の基準

通学時間は概ね「40分以内」(徒歩通学の場合、通学時間40分で通学できる距離を計算)

学校	通学方法	通学距離
小学校	徒歩	概ね 2.3 km以内
	代替交通手段(スクールバス等)	2.3 km超
中学校	徒歩	概ね 2.8 km以内
	自転車	概ね 6.0 km以内(国の適正な通学距離の基準)
	代替交通手段(スクールバス等)	6.0 km超

◆通学距離については、通学路の実態、天候事情等を勘案し、学校ごとにその実情に応じた判断が必要となり、参考にしながら柔軟に考えていくこととする。

1. 学校の統合

① 新設校としての設置

- ・対象校の規模(学級数や児童生徒数等)及び創立時からの経過年数にかかわらず、対等な関係の統合とする。
- ・統合の組み合わせ、学校の設置、学校施設の状況等により、適正規模の基準を維持している学校も統合の対象校とする。

② 設置場所

- ・原則、統合対象のいずれかの校地と既存校舎を利活用する。
- ・校舎は校地面積、建築年数、施設の状況や教室数、周辺環境、児童生徒の通学距離などを勘案し決定していく。また、状況に応じて教育環境の更なる充実を図る。

2. 通学区域の見直し

■ 配慮する事項

- ・通学路の安全、通学距離、隣接校の児童生徒数、学校と地域とのこれまでの関係などに配慮する。

■ 丁寧な説明と合意形成

- ・通学区域を見直す際には、保護者や地域に対し、その意義と内容を説明し、理解を深める場を設定する。

■ 段階的な変更の実施

- ・事例によっては、段階的に通学区域の変更を進めることとする。

■ 分散進学 of 解消と小中学校の連携強化

- ・分散進学 of 解消: 同一小学校から中学校へ通学できる配置をする。
⇒ 小中連携を図り、義務教育9年間を見通したカリキュラムを編成

留意事項

① 児童生徒や保護者への配慮

児童生徒の不安や負担を軽減し、保護者の意見に丁寧に耳を傾け、寄り添った対応を行う。

② 通学時の安全

安全な通学路の確保や見守り体制の充実など、通学時の安全確保を最優先に取り組む。

③ 地域への配慮

地域の絆や伝統、コミュニティのつながりを尊重し、地域の理解と協力を得ながら進める。

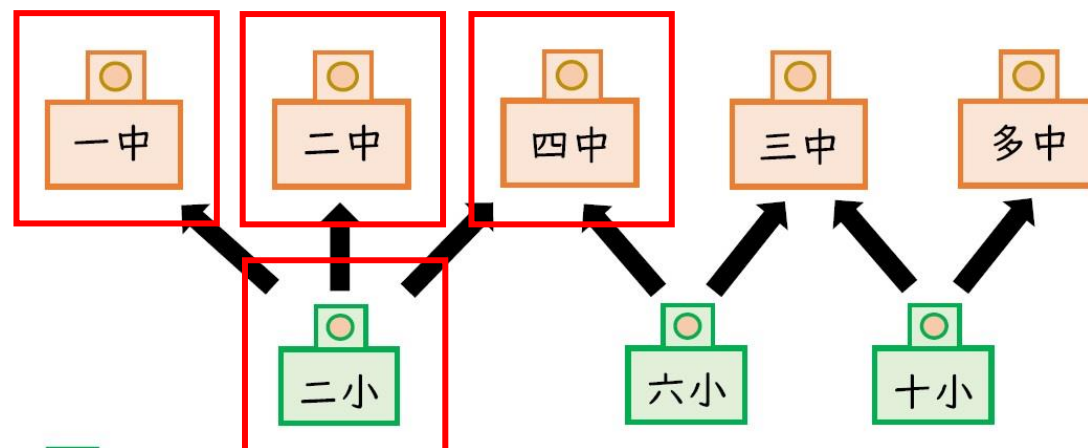
④ 学校の跡地活用

地域の状況やニーズを踏まえ、総合的な観点で新たな活用方法を検討する。

5 通学区域の現状

■通学区域の状況

現行の通学区域においては、下図のとおり、1つの小学校の通学区域が複数の中学校にまたがる分散進学が生じている。



 小学校：分散進学が生じている小学校

■第二小学校の分散進学の状況

進学先	R3		R4		R5		R6		R7		R8	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
一中	19	39	19	37	24	48	21	42	25	43	12	27
二中	15	31	10	19	11	22	9	18	9	15	10	23
四中	12	24	21	40	11	22	17	34	20	34	19	43
私立・県外	3	6	2	4	4	8	3	6	5	8	3	7
計	49	100	52	100	50	100	50	100	59	100	44	100

■分散進学による懸念事項

①友人関係の分断

児童が複数の中学校に分かれて進学すると、友人関係が途切れ、不安や負担につながるおそれがある。
※館林市教育環境に関するアンケート調査において、小中学生では人間関係に関する心配が最も高い。

②中1ギャップの懸念

分散進学時には、生活環境や人間関係が大きく変わるため、中学校生活への適応が難しくなる可能性がある。

③小中連携のハードル

1つの小学校が複数の中学校に分かれると、授業・生徒指導・学校行事などの連携がしにくくなる。

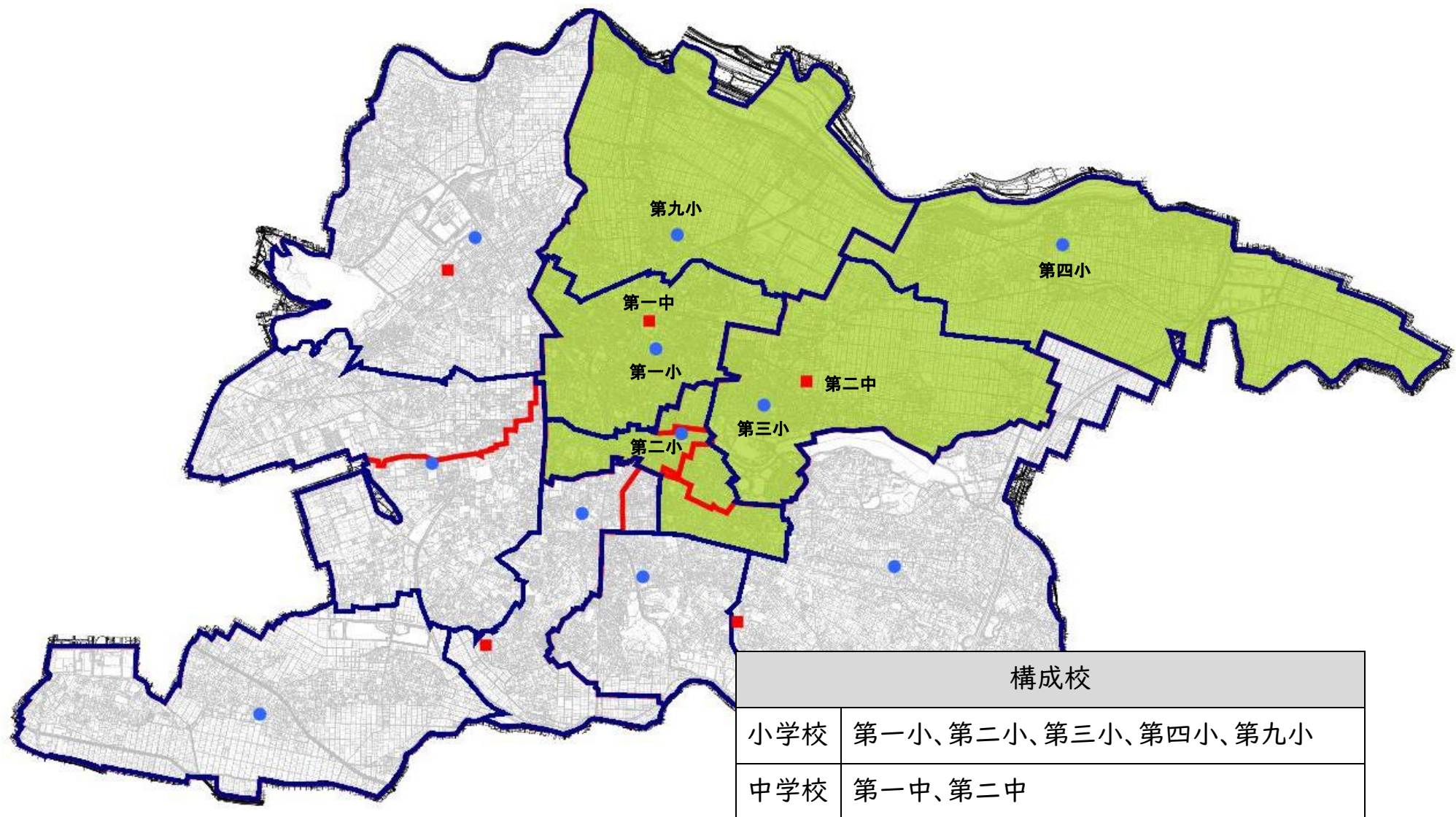
④地域コミュニティへの影響

進学先が分散すると、地域の行事や教育支援活動（ボランティア活動、PTA 活動など）が効率的に行えなくなる可能性がある。

※第六小学校（西地区）、第十小学校（西地区）の分散進学の状況等については、付属資料3:分散進学の状況をご覧ください。

6 北地区の概要

➤ 付属資料4: 学校規模と将来推計



(出典) 館林都市計画基本図データを使用して作成

7 児童生徒数及び学級数の推移

➤ 付属資料4: 学校規模と将来推計

	適正規模未満
	学年単学級存在
	複式学級存在

5校中4校が適正規模未満
うち2校は全学年が学年単学級
さらに1校には複式学級が存在

R8比で北地区児童数は31.6%減の見込み
2校は全学年単学級が継続の見込み
さらに1校は全学年が複式学級の見込み

学校		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
一小	児童数	548	545	554	550	555	547	545	543	524	503	481	474	444	430	416	420	396	393	382	371	361	351	341
	学級数	20	19	19	19	18	18	19	19	18	18	18	17	17	16	16	16	15	16	16	15	15	14	13
二小	児童数	332	327	316	318	320	307	294	284	281	261	228	216	216	212	196	195	198	203	201	199	197	195	193
	学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	9	9	9	9	8	9	10	10	9	8	7	8	9
三小	児童数	350	336	344	361	354	359	368	373	347	348	330	327	296	279	267	244	251	230	219	208	197	187	178
	学級数	12	12	13	13	12	12	13	13	12	13	13	12	11	11	11	11	12	11	11	10	9	8	7
四小	児童数	76	71	78	66	66	61	61	60	53	56	54	53	45	41	31	30	29	27	25	23	21	19	17
	学級数	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	6	5	5	5	3	4	4	3	3	3	3	3	3
九小	児童数	217	208	207	193	187	188	168	157	163	160	139	132	134	131	122	119	119	108	105	102	99	96	93
	学級数	9	9	9	8	8	8	6	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
計	児童数	1,523	1,487	1,499	1,488	1,482	1,462	1,436	1,417	1,368	1,328	1,232	1,202	1,135	1,093	1,032	1,008	993	961	932	903	875	848	822
	学級数	59	58	59	58	56	55	55	56	53	54	52	49	48	47	44	46	47	46	45	42	40	39	38

学校		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
一中	児童数	468	463	443	425	414	405	430	418	442	415	433	398	385	365	378	366	339	312	301	290	280	270	260
	学級数	14	14	13	12	13	12	14	13	14	13	13	12	12	12	12	11	10	9	9	9	9	9	9
二中	児童数	327	303	273	264	253	242	240	238	254	239	238	219	238	242	245	224	198	181	176	171	166	161	156
	学級数	9	9	9	8	8	8	9	9	9	9	8	7	7	8	9	9	8	7	6	6	6	6	6
計	児童数	795	766	716	689	667	647	670	656	696	654	671	617	623	607	623	590	537	493	477	461	446	431	416
	学級数	23	23	22	20	21	20	23	22	23	22	21	19	19	20	21	20	18	16	15	15	15	15	15

※令和9年度から令和14年度までは、令和8年4月現在の各校での児童生徒在籍数、住民基本台帳における小学校新入生予定数、そして、中学校新入生進学率を基に児童生徒数を算出し、そこから学級数を算出。

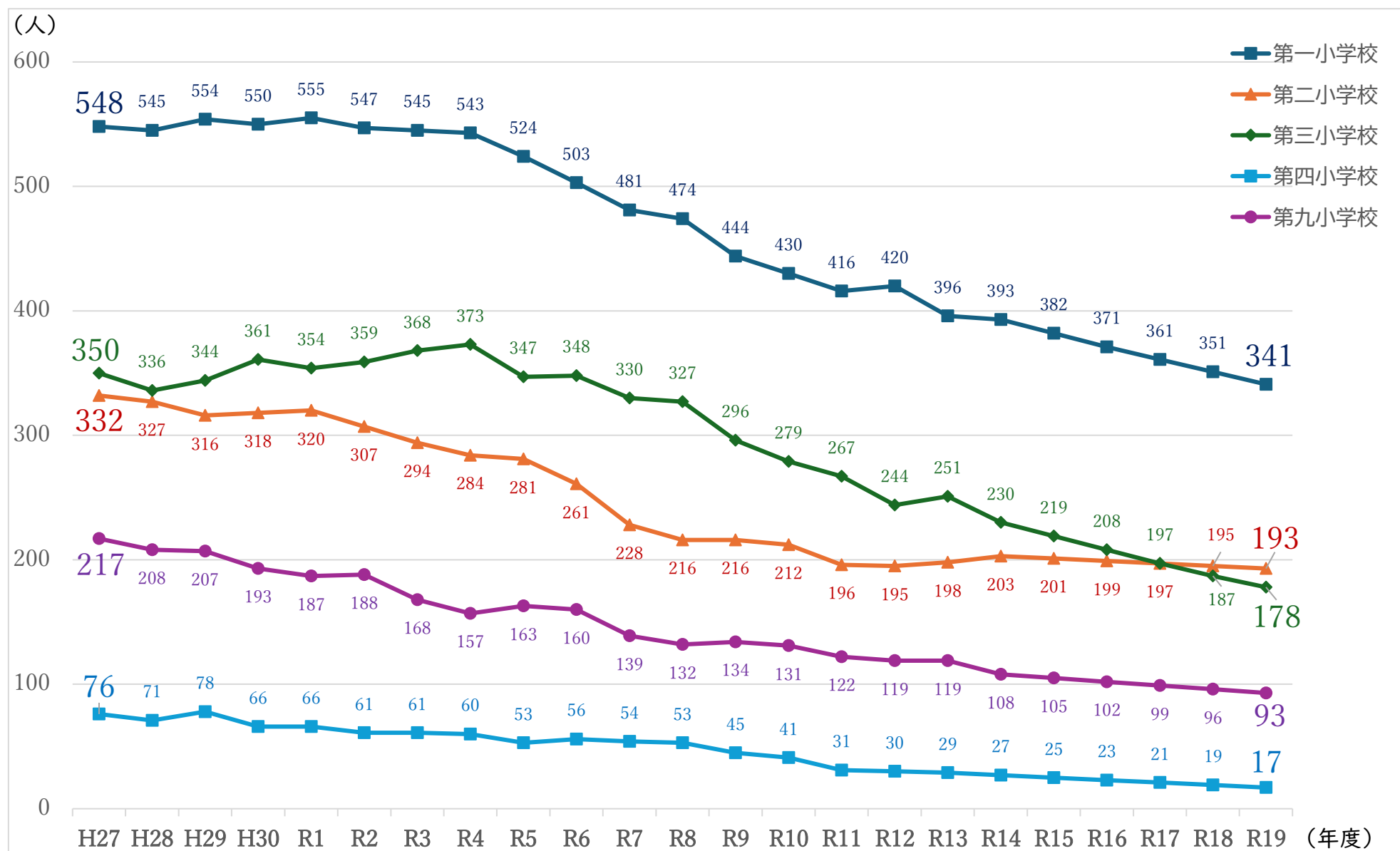
※令和15年度以降は、令和8年度から令和14年度までの増減率を基に1年ごとの学校全体の児童生徒数を算出。さらに、算出された学校全体の児童生徒数から児童生徒在籍数を引き算し、小中学校の新入学生数を推計値として算出。

1校が適正規模未満

R8比で北地区生徒数は32.6%減の見込み

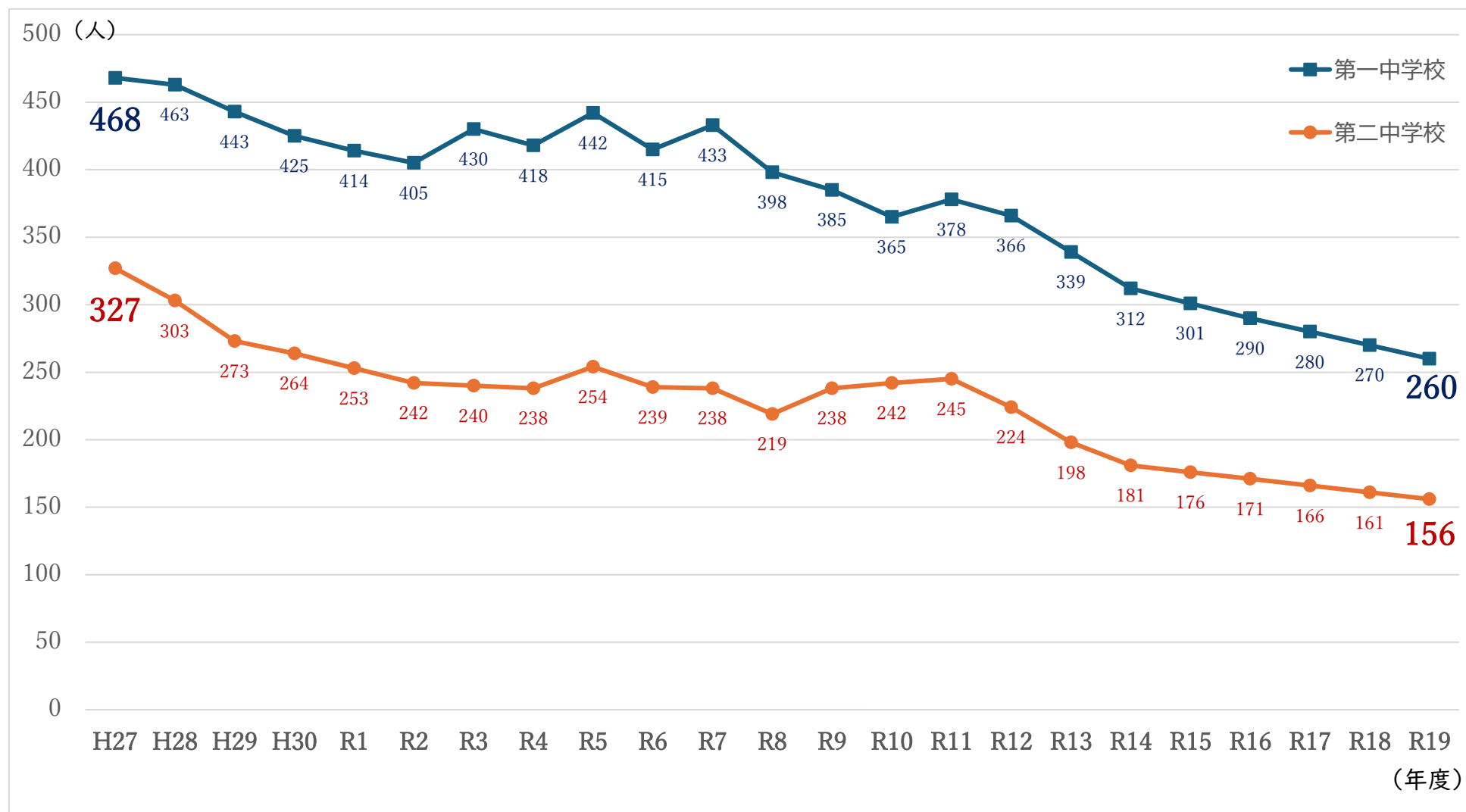
7 児童生徒数及び学級数の推移 [小学校児童数の推移]

➤付属資料4: 学校規模と将来推計



7 児童生徒数及び学級数の推移〔中学校生徒数の推移〕

➤ 付属資料4: 学校規模と将来推計



8 北地区の小学校及び中学校 [第一小学校]



(出典) 国土地理院「地理院タイル(写真地図)」

基本概要 (R8)			
所 在	館林市代官町 9-1	創立年	明治6年
建築年度	昭和45年度	校舎面積	5,543 m ²
教室数	38 (※学校適正配置推進室調べ)		
進学先	一中		
周辺施設	一中、中部公民館、北こども園 等		
放課後児童クラブ	第1・第2聖ルカ学童クラブ		
学校再編に関する主な事項			
R8時点	・児童数474人、学級数17 (特別支援学級を除く) ・適正規模を維持している		
R19時点	・児童数341人、学級数13 (特別支援学級を除く) ・適正規模を維持することが見込まれる		

(出典) 創立年及び校舎面積は「令和7年度館林市の教育」を基に作成
建築年度は「館林市公共施設等総合管理計画(令和4年3月改訂版)」を基に作成

■児童数及び学級数の推計

学校名	学年	R8（年度）			R9		R10		R11		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
		児童数		学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
		通常	特支																							
一 小	1	62	8	3	55	2	74	3	73	3	76	3	48	2	67	3	44	2	63	3	63	3	66	3	38	2
	2	65	7	3	70	3	55	2	74	3	73	3	76	3	48	2	67	3	44	2	63	3	63	3	66	3
	3	67	5	2	72	3	70	2	55	2	74	3	73	3	76	3	48	2	67	2	44	2	63	2	63	2
	4	79	8	3	72	3	72	3	70	2	55	2	74	3	73	3	76	3	48	2	67	2	44	2	63	2
	5	83	5	3	87	3	72	3	72	3	70	2	55	2	74	3	73	3	76	3	48	2	67	2	44	2
	6	79	6	3	88	3	87	3	72	3	72	3	70	2	55	2	74	3	73	3	76	3	48	2	67	2
	特支	—	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	合計	474		24	444	17	430	16	416	16	420	16	396	15	393	16	382	16	371	15	361	15	351	14	341	13

8 北地区の小学校及び中学校 [第二小学校]

➤付属資料5:館林市立小中学校教室数一覧

➤付属資料6:学校施設の状況



(出典) 国土地理院「地理院タイル(写真地図)」

■児童数及び学級数の推計

基本概要 (R8)			
所 在	館林市本町三丁目 6-1	創立年	昭和4年
建築年度	昭和43年度	校舎面積	4,690 m ²
教室数	34 (※学校適正配置推進室調べ)		
進学先	一中、二中、四中		
周辺施設	城沼公民館、南こども園 等		
放課後児童クラブ	風の子クラブ第1・第2		
学校再編に関する主な事項			
R8時点	・児童数216人、学級数9 (特別支援学級を除く) ・3つの学年が 学年単学級 ・一中、二中、四中への 分散進学 ・富士見町区は二小学区だが、条件により六小に入学している		
R19時点	・児童数193人、学級数9 (特別支援学級を除く) ・3つの学年が 学年単学級 になることが見込まれる		

(出典) 創立年及び校舎面積は「令和7年度館林市の教育」を基に作成
建築年度は「館林市公共施設等総合管理計画(令和4年3月改訂版)」を基に作成

学校名	学年	R8 (年度)			R9		R10		R11		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
		児童数		学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
		通常	特支																							
二小	1	28	0	1	36	2	42	2	26	1	33	2	33	2	33	2	34	2	40	2	24	1	31	2	31	2
	2	30	0	1	28	1	36	2	42	2	26	1	33	2	33	2	33	2	34	2	40	2	24	1	31	2
	3	30	4	1	30	1	28	1	36	2	42	2	26	1	33	1	33	1	33	1	34	1	40	2	24	1
	4	38	4	2	34	1	30	1	28	1	36	2	42	2	26	1	33	1	33	1	33	1	34	1	40	2
	5	45	1	2	42	2	34	1	30	1	28	1	36	2	42	2	26	1	33	1	33	1	33	1	34	1
	6	36	0	2	46	2	42	2	34	1	30	1	28	1	36	2	42	2	26	1	33	1	33	1	33	1
	特支	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	216		11	216	9	212	9	196	8	195	9	198	10	203	10	201	9	199	8	197	7	195	8	193	9

8 北地区の小学校及び中学校 [第三小学校]



(出典) 国土地理院「地理院タイル(写真地図)」

基本概要 (R8)			
所 在	館林市尾曳町 14-1	創立年	昭和27年
建築年度	昭和61年度	校舎面積	4,870 m ²
教室数	25 (※学校適正配置推進室調べ)		
進学先	二中		
周辺施設	二中、郷谷公民館 等		
放課後児童クラブ	三小東学童クラブ、にじの森第一・第二学童クラブ		
学校再編に関する主な事項			
R8時点	・児童数327人、学級数12 (特別支援学級を除く) ・1つの学年が 学年単学級 (弾力的学級編成)		
R16時点	・2つの学年が 学年単学級 になることが見込まれる		
R19時点	・児童数178人、学級数7 (特別支援学級を除く) ・5つの学年が 学年単学級 になることが見込まれる		

(出典) 創立年及び校舎面積は「令和7年度館林市の教育」を基に作成
建築年度は「館林市公共施設等総合管理計画(令和4年3月改訂版)」を基に作成

■児童数及び学級数の推計

学校名	学年	R8 (年度)			R9		R10		R11		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
		児童数		学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
		通常	特支																							
三小	1	44	2	2	44	2	38	2	43	2	36	2	44	2	25	1	33	2	27	1	32	2	26	1	35	2
	2	35	2	1	46	2	44	2	38	2	43	2	36	2	44	2	25	1	33	2	27	1	32	2	26	1
	3	55	4	2	37	2	46	2	44	2	38	2	43	2	36	2	44	2	25	1	33	1	27	1	32	1
	4	49	6	2	59	2	37	2	46	2	44	2	38	2	43	2	36	2	44	2	25	1	33	1	27	1
	5	53	2	2	55	2	59	2	37	2	46	2	44	2	38	2	43	2	36	2	44	2	25	1	33	1
	6	74	1	3	55	2	55	2	59	2	37	2	46	2	44	2	38	2	43	2	36	2	44	2	25	1
	特支	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		327		15	296	12	279	12	267	12	244	12	251	12	230	11	219	11	208	10	197	9	187	8	178	7

8 北地区の小学校及び中学校 [第四小学校]



(出典)国土地理院「地理院タイル(写真地図)」

基本概要(R8) ※小規模特認校に指定されている			
所 在	館林市大島町 4355	創立年	明治6年
建築年度	昭和63年度	校舎面積	3,473 m ²
教室数	21 (※学校適正配置推進室調べ)		
進学先	二中		
周辺施設	大島公民館、東こども園 等		
放課後児童クラブ	たんぽぽ学童クラブ		
学校再編に関する主な事項			
R8時点	・児童数53人、学級数5 (特別支援学級を除く) ・4つの学年が 学年単学級 ・全学年が 適正規模の暫定基準を下回っている ・2つの学年が同クラスとなる 複式学級		
R11時点	・全学年が 複式学級 になることが見込まれる		
R19時点	・児童数17人、学級数3 (特別支援学級を除く) ・全学年が 複式学級 になることが見込まれる		

(出典) 創立年及び校舎面積は「令和7年度館林市の教育」を基に作成

建築年度は「館林市公共施設等総合管理計画(令和4年3月改訂版)」を基に作成

■児童数及び学級数の推計

学校名	学年	R8 (年度)			R9		R10		R11		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
		児童数		学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
		通常	特支																							
四小	1	6(2)	0	1	5	1	5	1	1	*0	8	1	4	1	4	*0	3	*0	3	*0	1	*0	6	*0	2	*0
	2	5(0)	0		6	1	5	1	5	1	1	1	8	1	4	1	4	1	3	1	2	1	1	1	6	1
	3	8(2)	1(1)	1	5	*0	6	*0	5	*0	5	*0	1	*0	8	*0	4	*0	4	*0	2	*0	2	*0	1	*0
	4	10(7)	1(1)	1	9	1	5	1	6	1	5	1	5	1	1	1	8	1	4	1	4	1	2	1	2	1
	5	9(1)	0	1	11	1	9	1	5	*0	6	*0	5	*0	5	*0	1	*0	8	*0	4	*0	4	*0	2	*0
	6	12(3)	1(1)	1	9	1	11	1	9	1	5	1	6	1	5	1	5	1	1	1	8	1	4	1	4	1
	特支	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		53(18)		7	45	5	41	5	31	3	30	4	29	4	27	3	25	3	23	3	21	3	19	3	17	3

8 北地区の小学校及び中学校 [第九小学校]



(出典)国土地理院「地理院タイル(写真地図)」

基本概要 (R8)			
所 在	館林市足次町 172	創立年	明治7年
建築年度	昭和53年度	校舎面積	2,941 m ²
教室数	20 (※学校適正配置推進室調べ)		
進学先	一中		
周辺施設	渡瀬公民館、渡瀬保育園 等		
放課後児童クラブ	わたらせ学童クラブ		
学校再編に関する主な事項			
R8時点	・児童数132人、学級数6 (特別支援学級を除く) ・全学年が 学年単学級		
R14時点	・全学年が 学年単学級 の見込み ・2つの学年が 適正規模の暫定基準を下回る ことが見込まれる		
R19時点	・児童数93人、学級数6 (特別支援学級を除く) ・全学年の 学年単学級 が見込まれる ・4つの学年が 適正規模の暫定基準を下回る ことが見込まれる		

(出典) 創立年及び校舎面積は「令和7年度館林市の教育」を基に作成

建築年度は「館林市公共施設等総合管理計画(令和4年3月改訂版)」を基に作成

■児童数及び学級数の推計

学校名	学年	R8（年度）			R9		R10		R11		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
		児童数		学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
		通常	特支																							
九小	1	19	4	1	20	1	21	1	19	1	17	1	19	1	12	1	17	1	18	1	16	1	14	1	16	1
	2	18	1	1	23	1	20	1	21	1	19	1	17	1	19	1	12	1	17	1	18	1	16	1	14	1
	3	18	2	1	19	1	23	1	20	1	21	1	19	1	17	1	19	1	12	1	17	1	18	1	16	1
	4	27	1	1	20	1	19	1	23	1	20	1	21	1	19	1	17	1	19	1	12	1	17	1	18	1
	5	22	2	1	28	1	20	1	19	1	23	1	20	1	21	1	19	1	17	1	19	1	12	1	17	1
	6	18	0	1	24	1	28	1	20	1	19	1	23	1	20	1	21	1	19	1	17	1	19	1	12	1
	特支	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	132		8	134	6	131	6	122	6	119	6	119	6	108	6	105	6	102	6	99	6	96	6	93	6

8 北地区の小学校及び中学校 [第一中学校]



(出典)国土地理院「地理院タイル(写真地図)」

基本概要 (R8)			
所 在	館林市台宿町 9-1	創立年	昭和22年
建築年度	昭和51年度	校舎面積	6,051 m ²
教室数	39 (※学校適正配置推進室調べ)		
学区内	一小、二小(一部)、九小		
周辺施設	一小、中部公民館、北こども園		
学校再編に関する主な事項			
R8時点	・生徒数398人、学級数12(特別支援学級を除く) ・適正規模を維持している ・二小(一部)からの 分散進学先		
R19時点	・生徒数260人、学級数9(特別支援学級を除く) ・適正規模を維持することが見込まれる		

(出典) 創立年及び校舎面積は「令和7年度館林市の教育」を基に作成
 建築年度は「館林市公共施設等総合管理計画(令和4年3月改訂版)」を基に作成

■生徒数及び学級数の推計

学校名	学年	R8 (年度)			R9		R10		R11		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
		生徒数		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
		通常	特支																							
一 中	1	110	8	4	117	4	130	4	131	4	105	3	103	3	104	3	94	3	92	3	94	3	84	3	82	3
	2	140	10	4	118	4	117	4	130	4	131	4	105	3	103	3	104	3	94	3	92	3	94	3	84	3
	3	126	4	4	150	4	118	4	117	4	130	4	131	4	105	3	103	3	104	3	94	3	92	3	94	3
	特支	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	398		16	385	12	365	12	378	12	366	11	339	10	312	9	301	9	290	9	280	9	270	9	260	9

8 北地区の小学校及び中学校 [第二中学校]



(出典) 国土地理院「地理院タイル(写真地図)」

基本概要 (R8)			
所 在	館林市加法師町 8-20	創立年	昭和33年
建築年度	平成14年度	校舎面積	5,811 m ²
教室数	30 (※学校適正配置推進室調べ)		
学区内	二小(一部)、三小、四小		
周辺施設	三小、郷谷公民館 等		
学校再編に関する主な事項			
R8時点	・生徒数219人、学級数7(特別支援学級を除く) ・2つの学年が適正規模を下回っている ・二小(一部)からの分散進学先		
R15時点	・全学年が適正規模を下回ることが見込まれる		
R19時点	・生徒数156人、学級数6(特別支援学級を除く) ・全学年が適正規模を下回ることが見込まれる		

(出典) 創立年及び校舎面積は「令和7年度館林市の教育」を基に作成
建築年度は「館林市公共施設等総合管理計画(令和4年3月改訂版)」を基に作成

■生徒数及び学級数の推計

学校名	学年	R8 (年度)			R9		R10		R11		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
		生徒数		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
		通常	特支																							
二 中	1	66	6	2	96	3	74	3	75	3	75	3	48	2	58	2	70	2	43	2	53	2	65	2	38	2
	2	65	5	2	72	2	96	3	74	3	75	3	75	3	48	2	58	2	70	2	43	2	53	2	65	2
	3	75	2	3	70	2	72	2	96	3	74	3	75	3	75	3	48	2	58	2	70	2	43	2	53	2
	特支	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	219		10	238	7	242	8	245	9	224	9	198	8	181	7	176	6	171	6	166	6	161	6	156	6

8 北地区の小学校及び中学校 [各学校の現状と課題]

■ 小学校

適正規模の課題		解決の方向性
第一小学校	R8時点 : 適正規模を維持 R19時点: 適正規模を維持する見込み	
第二小学校	R8時点 : 3つの学年が 学年単学級 R19時点: 3つの学年が 学年単学級 の見込み	
第三小学校	R8時点 : 1つの学年が 学年単学級 R16時点: 2つの学年が 学年単学級 の見込み R19時点: 5つの学年が 学年単学級 の見込み	
第四小学校	R8時点 : 4つの学年が 学年単学級 2つの学年が 複式学級 全学年が 適正規模の暫定基準を下回っている R11時点: 全学年が 複式学級 の見込み R19時点: 全学年が 複式学級 の見込み	
第九小学校	R8時点 : 全学年が 学年単学級 R14時点: 全学年が 学年単学級 の見込み 2つの学年が 適正規模の暫定基準を下回る 見込み R19時点: 全学年が 学年単学級 の見込み 4つの学年が 適正規模の暫定基準を下回る 見込み	
分散進学の実状		解決の方向性
第二小学校	一中、二中、四中への 分散進学	

8 北地区の小学校及び中学校 [各学校の現状と課題]

■中学校

適正規模の課題		解決の方向性
第一中学校	R8時点：適正規模を維持 R19時点：適正規模を維持する見込み	
第二中学校	R8時点：2つの学年が適正規模を下回っている R15時点：全学年が適正規模を下回る見込み R19時点：全学年が適正規模を下回る見込み	
分散進学の実状		解決の方向性
第一中学校	一小、二小（一部）、九小	
第二中学校	二小（一部）、三小、四小	

■その他

その他の課題	解決の方向性
・富士見町区は二小学区だが、条件により六小に入学している	